

江州今津で罹病した爲再び京都に赴き、五年六月廿三日その地で歿した。享年三十九。紫野大徳寺中正受院に葬る。法號大慶院有庵宗無居士。その子知辰は鞍馬で生まれたもので、寛永七年新たに祿を給うた。

マハダトモヨリ 前田知頼 加賀藩臣。通稱萬之助・修理・齋宮。内藏允知巨の子。祿五千石。寶永二年五月若年寄、四年六月家老、享保元年七月小松城代となり、同年千石を加へ、元文四年致仕して秋庵と號し、寛保二年三月十九日歿、八十一歳。甲申東北道記の著がある。

マハダナガサダ 前田長定 通稱與十郎、一諱種定。前田利家に臣事した與十郎長種の父である。初め尾張蟹江城に居り、次いで前田城に移り、又一色城に轉じ、天正十二年七月二日その地に自害した。享年不詳。法號玉龍寺一翁玉機居士。その室は織田信長の伯父玄蕃の女であつた。

マハダナガシゲ 前田長重 加賀藩臣。通稱左馬介。丹後長時の子。寛永十七年父の祿五千石を襲ぎ、正保元年父に先だつて歿した。年廿九。

マハダナガタネ 前田長種 加賀藩の老臣 前田氏の家祖。通稱與十郎・甚七郎・對馬、初諱勝安。初め父長定(一名種定)の後を襲いで尾張蟹江城に居り、次いで前田城に轉じたが、天正十二年織田信雄の爲に前田城を攻められた爲、支へることを得ず和を講じて去り、加賀に來り、前田利家に仕へて祿一萬石を受け、七尾城を守り、十三年利家の女幸姫を娶つて室とし、十四年越中守山城に轉じて二千石を加へられ、文祿二年以降利常鞠育の任に當り、

慶長四年富山に移つて三千石を増し、六年從五位下對馬守に叙任し、十一年小松に遷つて五千石を加へ、前後累計二萬石に及んで人持組頭となつた。長種寛永中致仕し、剃髮して源峰といひ、その領知の中五千石を嫡子直知に、四千石を次子長時に配分し、自ら一萬千石を隠居料としたが、八年三月十一日八十二歳を以て小松に卒した。法號常徳院孤庵源峰居士。金澤玉龍寺に葬る。

マハダナガトキ 前田長時 加賀藩臣。通稱犬松。丹後。對馬守長種の次子。母は利家の女春桂院。文祿元年越中守山に生まれ、慶長六年初めて前田利長に仕へて千石を領し、寛永八年父の歿した時四千石を加へ、人持組に列し、十七年致仕して家を子長重に譲つたが、正保二年利常に召されて江戸に至り、致仕料三千石を受け、萬治中金澤城代となり、延寶四年九月四日八十五歳を以て歿した。法號月山大心居士。

マハダナガトモ 前田長知 加賀藩臣。一諱孝勝。通稱主水。内記直知の五男。正保元年前田光高に仕へて四百石を領し、小將組に列し、四年三百石、慶安四年又六百二十石を加へ、累計千三百二十石となつた。萬治・寛文の頃御小將番頭・御馬廻頭に任じ、延寶二年十一月朔日歿した。

マハダナガナリ 前田長成 加賀藩臣。通稱頼母・平太夫。丹後長時の次子。兄長重正保元年歿するを以て、その祿五千石を襲ぎ、萬治三年定火消となり、延寶二年小松城代に任じ、四年父長時の歿した時その致仕料三千石を併せて八千石を領し、七年八月十二日六十一歳を以て歿した。

マハダナホアヒ 前田直會 加賀藩の老臣 前田直之系の第八代。實は藩侯前田齊泰の八子。弘化四年八月廿四日出生。通稱靜之介。嘉永元年正月直良之を養うて嗣とし、四年六月六日家祿一萬千石を襲いだ。安政三年二月十三日歿、享年十。法號清寥院、野田山に葬る。

マハダナホカタ 前田直堅 加賀藩の老臣 前田直之系の第三代。直作の三男。天和三年五月十七日出生。元祿二年七月六日家祿一萬五千石を襲ぎ、十五年四月廿五日從五位下近江守に叙任し、寶永二年五月廿五日祿を増して一萬千石となつた。享保十四年八月九日四十七歳で歿。法號萬壽院、野田山に葬る。

マハダナホカタ 前田直方 加賀藩の老臣 前田直之系の第五代。直躬の三男。寛延元年閏十月廿七日出生。通稱三左衛門。寶曆十三年新知二千五百石を受け、安永三年六月朔世祿一萬千石を襲ぎ、六年十二月廿六日從五位下土佐守に任ぜられ、文化九年十二月十五日致仕して名を近江と改め、養老祿二千石を賜ひ、而して子直登は先に歿したから、孫直時をして後を承けしめた。文政六年十一月十七日七十六歳で歿。法號詠歸院、野田山に葬る。

マハダナホトキ 前田直時 加賀藩の老臣 前田直之系の第六代。直登の嫡男。寛政六年四月出生。文化五年十二月新知二千五百石を受け、九年十二月十五日祖父直方の後を繼いで一萬千石を領し、十三年十二月廿三日從五位下土佐守に叙任し、文政十一年八月七日三十五歳で歿した。法號萬法院、野田山に葬る。

マハダナホトモ 前田直知 加賀藩の老臣 前田長種系の第二代。長種の嫡男。通稱樂作。内記。初諱直長。前田利長の時新たに祿五千石を受け、寛永中父の致仕した後五千石を配分せられ、併せて一萬石を領したが、後病によつて致仕し、その知行の内六千五百石を長子對馬直正に、千五百石を三子志摩直成に與へ、二千石を隠居料とし、寛永七年九月廿三日四十四歳(一作四十五)で歿した。法號鹿園院天翁源高居士、金澤玉龍寺に葬る。直知の妻は祖心である。↓ソシン 祖心。

マハダナホトモ 前田直興 加賀藩臣。通稱親貞・左衛門。文化七年父大學直英の遺知千五百石を襲ぎ、九年小松御城番に任じたが、文政四年六月藩侯前田齊廣の意に應ぜざるを以て、五百石を減じて退養を命ぜられ、七年五月御免、同年十二月亂心の体なるを以て更に知行を召上げ、一類御預となり、同月弟直正は祖父の勤勞により、五百石を興へて新に家を興さしめられた。

マハダナホナリ 前田直作 加賀藩の老臣 前田直之系の第二代。直之の嫡男。寶永十九年二月二日出生。通稱備後。延寶二年十二月廿七日夜家祿一萬五千石を襲ぎ、元祿二年四月九日四十八歳で卒した。法號佛心院、野田山に葬る。

マハダナホナリ 前田直成 加賀藩臣。初諱孝成又は孝知。通稱孫九郎・志摩。内記直知の三男。母は祖心。父直知の致仕した時その領一萬石の内千五百石を配分せられ、前田利常に仕へ、次いで生母の再嫁に従うて浦生秀行の家幸町野長門守吉知(一作幸知)の養子となり江戸に出たが、寛永八年兄直正死亡してその子長松孝貞幼少なるを以て、利常之を召返し、一萬七千石を興へ、孝貞十五歳に至